

2013年度関西英語教育学会（第18回）研究大会 概要

6月9日（日）
9:20～10:45 企画ワークショップ・公募ワークショップ1
【第1室】（企画ワークショップ）技能統合型の授業で押さえておきたいもう2つのこと 廣森 友人（明治大学）
学習指導要領の改訂に伴い、4技能を統合的に活用できるコミュニケーション能力の育成がより重要視されることになりました。日常場面を見ても、複数の技能を同時に用いることが一般的であり、教室場面を見ても、英語に割ける授業時間は限られていることから、技能統合型の授業はある意味、必然的な帰結とも言えます。本セミナーでは、そのような授業を展開する上で押さえておきたいポイントとして、4つの言語技能の統合といった言語的視点に加え、もう2つの視点（具体的には、認知的視点、情意的視点）について確認します。それぞれの視点をどのように統合するのか、参加者の皆さんには自らの指導実践をイメージしながら、実際の活動を経験していただきます。本セミナーがより効果的な英語学習・指導の在り方について考えていただく1つの機会になればと願っています。
【第2室】（公募ワークショップ）コミュニケーション力育成につながる英作文指導法とその背景理論:学習者中心の談話生成法としてのプロセス・ライティングと 社会的行為としてのジャンル・アプローチ 玉井 健（神戸市外国語大学）
翻訳作文は、文単位で英作文をとらえて形式面に焦点を当てるために、同じく文単位で文法知識を教える英文法授業と親和性が高く、幾多の学習指導要領の変遷を経ても尚、日本では広く行われている指導法です。一方でコミュニケーションとしてのライティングを考えた時、文単位の作文指導は文脈および主体から切り離されているという点で学習者の英語表現力伸長に限界を持つのも事実です。本ワークショップでは、文脈と主体を意識した作文指導方法を二種類紹介し、英作文指導の考え方を議論します。具体的には、談話単位の作文を学習者中心に行い、自然な意味生成を促す方法としてのプロセス・ライティングと、作文を生活の中での社会的行為として捉えるジャンル・アプローチです。限られた時間の中ですが、参加者の皆さんには可能な限り体験していただきながら、学習者のための英作文というのは何なのか共に考えてみたいと思います。